

# たきのうえ を思う



遠軽町在住  
張間 徹 さん

昭和四十三年三月、私は滝上町三区で生まれました。

その後、地元の滝上高等学校を卒業するまでの間、約十八年間、滝上町民として過ごしてきました。

この度、この原稿の依頼を受けて、私の生まれ故郷である滝上町での思い出を振り返ってみたいと思います。

私の住んでいた自宅前の道路は、国道二七三号線でしたが、小学校入学の頃は今と違ってまだ砂利道で、片道二kmの道のりを毎日自転車です通っていました。

その後、道路開発が進み、自宅前の道路が舗装となり、何よりうれし

かったのが、三区と滝西を結ぶ橋が新しく完成したことでした。

この橋ができる前の道路は、沢沿いの砂利道を下って上つてという、小学生には過酷な道で、今にでも熊が出そうな雰囲気だったことを今でも覚えております。

それが、橋の完成により、約十五分かかった場所が、五分で通過できるようになり、とても通学が楽になりました。小学生ながらに橋の完成をととても喜んでいました。

また、二区と三区の間も当時は、沢沿いの砂利道でしたが、同時期に直線の舗装道路となりました。ただし、この直線道路、その後の自分にとってはとても過酷な道となりました。

というのも、小学校は当時、滝上・濁川・滝下・白鳥・札久留・滝西の各地域にあったのですが、中学校は、町内にひとつしかなく、遠方の生徒はバスで通学という形でした。バス通学ですと部活も思うようにできないので、中学生になった私は部活で野球をするために、あえて自転車通学を選びました。毎朝、自宅から中学校へ向かうのは下り坂、三十分くらいで到着していたのですが、帰りは上り坂、しかも部活終了後の疲れた体には、二区から三区

への長い直線は過酷で、行きの倍の時間がかかりました。春先の強い風が吹いた時などは、もつと時間がかかり、本当に辛かったことを思い出します。それでも、毎日自転車で往復二十km通学していたことで、足腰が強くなり、野球をする上ではとても強い体になれたのではないかと思います。

そして、私が高校生になった頃、浮島トンネルが開通したことも思い出に残っております。

トンネルが開通する前は、浮島峠は夏の間だけしか通れず、冬期間に旭川方面へ行くルートは、上紋峠を通り、士別・剣淵方面へ抜けて、旭川へ行くルートだったので、夏期の倍以上、時間がかかっていました。それが、浮島トンネルが開通し、冬期間でも浮島峠が通れるようになると、冬でも旭川へ簡単に行けるようになり、しかも、旭川まで都市間バスが運行されるようになったおかげで、旭川がとても近くに感じるようになりました。

ただ、残念なこともありました。私が高校二年生になろうとした時、国鉄渚滑線が廃止されたことです。

廃止となる数年前から、国鉄関係者が転勤等で滝上町を去って行き、

廃線となって町全体が寂しくなったような気がしました。町から踏切りが無くなった日のことを今でも思い出します。

国鉄が無くなって、線路だったところに道路ができて、虹の橋などができて、滝上町は私が住んでいた頃とは大きく変わりました。

でも、変わらないところも数多くあります。

芝桜公園から眺める滝上町の景色は、細かなところは変わっても、街全体は変わっていない、そんな気がします。街の真ん中に川が流れて、遠くの山々の表情は昔のままです。そんな、生まれ故郷の町「滝上」私は大好きです。そして、私の心の中には、滝上で過ごした時間が数多く刻まれております。これからも、何年経っても、私の故郷は滝上町です。

